" KIDS SMILE LABO JOURNAL "IS A FREE PAPER PUBLISHED BY NURSERY KIDS SMILE LABO
PUBLISH: KIDS SMILE LABO PUBLISHING EDIT: AZUMI SUGITA / RIHO FUJII
WRITE: TAKASHI MORI / AIKO MATSUSAKI / AKIKO KOMATSU / TOMOKO HAYAKAWA / YURIKO FUKUSHIMA / TOMOMI YAMAZAKI / RIHO FUJII

KIDS SMILE LABO JOURNAL

Vol.57 2026 November

“キッズ スマイル ラボ ジャーナル”

KIDS SMILE LABO が発行するフリーペーパー。普段 SNS でしか見られない保育園の子どもたちの様子や、子育てに関する情報等、最新情報をお届けします。



夢を見てるみたいだ

子どもが何かに夢中になっているとき、その表情を見ていると、こちらまで心を動かされることがあります。何かを見つめる目や、ふとした瞬間にこぼれる笑顔。その表情は刻々と変化し、周りの声が気にならないほど集中したり、思いがけない発見に驚いたり。そんな姿を見ているうちに、いつしか私たち大人も、その子の姿に夢中になっているのです。

あるとき、一人の子が目の前に広がる光景を眺めながら、ぽつりとつぶやきました。

「夢を見てるみたいだ」

彼にとって、その場に広がっていた世界は、きっとそれほどまでに心を動かされるものだったのでしょう。目の前の光景を、自分の知っている言葉の中から精いっぱい選び、表現してくれたのかもしれません。その一言を聞いたとき、彼の目にはどんな世界が映っているのだろうと、隣にいた私も想像を膨らませずにはいられませんでした。

私たち大人にとっては、すでに知っているモノやコトも、子どもたちにとっては初めて出会う世界です。同じものを目にしても、「ふーん」と何気なく通り過ぎていくこともあれば、立ち止まり、目を輝かせ、自分なりの言葉で表現したくなるほど心を揺さぶられることもあります。

何に興味を持つのか、何を面白いと感じるのか。それは、子ども自身にしか分かりません。だからこそ私たち大人にできるのは、さまざまな世界と出会える機会をつくること。そして、子どもの心が動いたその瞬間を、急いで次へ進めることなく、丁寧に受け止めることなのだと思います。

「あなたには、今、何が見えているの？」

そんな問いを心の中に置きながら、しばらく言葉をかけずに見守ってみる。子どものつぶやきに耳を傾け、一緒に面白がったり、時には新たな気づきにつながるきっかけをそっと差し出したりする。大切なのは、大人の見ている世界に子どもを連れていくことではなく、子どもが見つけた世界を一緒に眺めてみることなのかもしれません。

大人は、子どもたちよりも長く生きている分、知っていることも、伝えられることもたくさんあります。けれど、その知識や経験を伝えることを少しだけ後回しにしてみる。すぐに答えを教えたり、意味づけたりせず、子ども自身が感じたり、考えたり、想像したりするための余白を残しておく。

その余白の中で、子どもたちの世界はどこまでも広がっていくのだと思います。

そして、そんな世界を隣で一緒に眺めながら、私たち大人もまた、まだ知らなかった景色に出会っていけたらと思います。

保育園 KIDS SMILE LABO　園長　森 誉

01 Top ページ
子どもの表情から心動く瞬間
園長森の考える子どもの世界との関わり方
をぜひお読みください。

02 みんなで歩いて、ぼうさいの丘へ！
片道 2.3km いつもはバスで行く場所へ
幼児クラスの子どもたちが歩いて向かいました

03 乳児クラストピック
秋の心地よい季節の到来
戸外ですくすく育つ乳児さんの今

04 お月見会
地域の皆さまにご協力をいただいて
今年もビックなイベントに。
夜は保護者も一緒にお月見を満喫しました

“キッズ スマイル ラボ ジャーナル”

KIDS SMILE LABO が発行するフリーペーパー。普段 SNS でしか見られない保育園の子どもたちの様子や、子育てに関する情報等、最新情報をお届けします。

kidssmilelabo.com

@kidssmilelabo @kidssmilelabo KIDS SMILE LABO @KIDS_SMILE_LABO

Over the past month, each class has been bustling with activity.
Our homeroom teachers have carefully crafted these class reports with great affection.
We invite you to enjoy reading about their journey.
This is the page for the classes of children aged 3 to 5.

Minamo Ozora Daichi

みんなで歩いて、ぼうさいの丘公園へ！

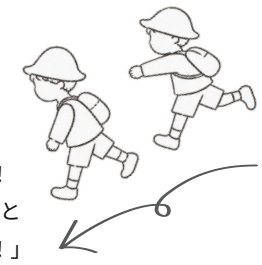
text by Akiko Komatsu

どきどき、、、わくわく！！



いつもはバスで出かける「ぼうさいの丘公園」。今回は、みんなで歩いて行くことに挑戦しました。「今まで誰もやったことがないんだよ」と伝えると、目を輝かせて「行ってみたい！」と期待いっぱいの子どもたち。前日には地図の見方を確認して、一人ひとりが首から提げる地図を準備しました。「行けるかな？」「旭公園の方に行けばいいんじゃない？」と、友達と地図をのぞき込みながら道順を考え、出発への期待を膨らませていました。

いよいよ当日。自分の地図を提げて、元気いっぱいに出発です！歩きながら地図を見て「合ってるかな？」「今はどこだろう？」と確認する子どもたち。道を知っている子が「ここを曲がってね！」とみんなに知らせたり、信号待ちでは、頭上の線路に気付いた子が「こっちに行くと駅に行っちゃう！」と周りの様子から道を考えたり。自分たちで確かめながら、1歩ずつ進んでいきます。





















やがて第一ポイントの厚木市文化会館が見えてくると、「あ！あの赤い建物だよ！」と声が上がりました。無事に到着し、地図を見ながら「今、1のところに着いたね！」と歩いてきた道を振り返ります。ひと休みした後も、道中には発見がいっぱい。いつもはバスの窓から眺めている景色も、自分の足で歩くと違って見えるようです。通り過ぎるバスを見て「あれ、いつも乗ってるバスだよね？」と話す子。川をのぞき込んで「鯉が1匹、2匹……こっちにはいっぱいいるよ！」「カモが泳いでるー！」と数え始める声も聞こえてきました。工事車両にも興味津々で、歩くたびに新しい発見が生まれていました。

公園まであと少し、最後に待っていたのは坂道です。疲れが見え始めるかと思いきや、「引っ張ってあげるよ！」「力を分けてあげるね！」と友達に手を差し伸べる声も聞こえてきました。坂道を駆け上がる子、後ろから来るバスと競争する子。それぞれのペースで登り切りました。そして、ついに到着！「着いたー！」と達成感いっぱいの笑顔が広がり、街に向かって「やっほー！」と元気な声が響きました。





こいのぼりの時期にやってきた恩曽川

噴水気持ちいい〜っ！！









Summary

今回の活動では、子どもたちが地図を見ながら行き方を相談し、自分たちで目的地を目指す姿が印象的でした。疲れても気持ちを切り替え、それぞれのペースで歩みを進める子どもたち。また、「引っ張ってあげるよ！」「力を分けてあげるね！」と、友達を思いやる言葉が自然と出てくる姿も素敵だなと感じました。目的地にたどり着くことだけでなく、そこへ向かう道中で、自分たちで考え、発見を楽しみ、友達と支え合いながら進んでいく。そんな一つひとつの経験が、子どもたちの成長につながっていくのだと感じました。
次はみんなで、どこへ歩いて行こうかな？子どもたちの「行ってみたい！」から今度はどんな発見や成長に出会えるか楽しみです！

Nobana

「できた！」の喜び、広がる優しさ



暑さが和らぎ、心地よい風を感じられるようになった10月。戸外で過ごす時間も増え、のばなさんは散歩や外遊びを楽しんでいます。

広場では思いきり走ったり、どんぐりを拾ったり、虫網を片手に虫探しをしたりと、自然の中での遊びを満喫しています。以前は虫籠に入った虫を観察するだけで、触れることができなかった子が、今ではバッタを手に乗せられるようになるなど、夏前と比べて成長を感じる場面が増えてきました。

ブランコや太鼓橋などの遊具も大好きで遊んでいます。ブランコでは「押して〜！」「もっともっと！」と揺らしてもらうことを楽しんでいた子どもたち。繰り返し遊ぶうちに、自分で足を動かして漕げるようになった子もいます。

その姿を見た友だちも、自分でやってみようと挑戦しています。「自分でできるよ！」という嬉しそうな表情からは、できるようになった喜びや、友だちの姿に刺激を受けて挑戦する意欲が伝わってきます。

また、たくさん遊んだ帰り道、疲れて泣いてしまった友だちのそばで、心配そうに顔を覗き込み、頭を優しく撫でたり、「もうラボだよ」と声をかけたりする姿も見られるようになりました。友だちの気持ちに目を向け、優しく寄り添おうとする心も少しずつ育っています。

「やってみたい！」と挑戦し、「できた！」を喜ぶこと。そして、友だちの思いに気づき、自分なりの言葉や行動で寄り添うこと。日々の遊びや生活の中で、一人ひとりがさまざまな経験を重ね、成長していることを感じます。これからも子どもたちの思いや意欲を大切にしながら、その成長を一緒に喜んでいきたいと思います。

text by Akiko Komatsu

Soyokaze

手と手をつないで



手をつなぎ、顔を見合わせてにっこり。今月はバギーを使わず、大人や友達と手をつないで散歩に出掛ける機会が増えたそよかぜさん。出発前には、「つなぎたい」「つなごう」と言葉で伝えたり、自然と手を取り合ったりする姿が見られます。嬉しそうに手をつなぐ日もあれば、お互いの思いがぶつかり、手をつなげず涙がこぼれる日もありますが、やりとりを重ね、「エイエイオー！」の掛け声で元気に出発！

広場や公園へ向かう道のりで、いつも優しく声をかけてくれる美容師さんや犬のむぎちゃんに会えることも、お散歩の楽しみのひとつです。

道路を渡る時には「とんとんとーまーれ」で止まり、車が来ないかを確認してから渡り、信号では、シャキシャキ歩くそよかぜさん。自分の足で歩くようになり、いつもの道も新鮮でわくわくがいっぱいです。

たくさん遊んだ帰り道は、疲れて歩くペースがゆっくりになり、つないでいた手が離れたり、気持ちが崩れたりすることも…そんな時、友達が再び歩くことが出来るまでそっと待つ、優しい姿も見られます。「今日の給食は何かな？」とおしゃべりを楽しみながら、みんなでラボを目指します。最後まで歩ききった喜びが、少しずつ自信につながっていることが子どもたちの表情からも感じることが多くなりました。

これからも友達と手をつないで歩きながら、散歩先での発見や一緒に歩く喜びを重ね、友達とのつながりを深めていきたいと思います。

text by Tomomi Hayakawa

Komorebi

手を伸ばして広がる世界



新しい仲間が増えて4名となり、こもれびクラスも賑やかになってきました。

10月に入り、戸外散歩が気持ちのよい季節になりました。バギーやベビーカーに乗って、あさひ公園や木陰広場へ遊びに行っています。がたごと揺られながら周囲をよく観察したり、心地よさそうにうとうとしたりする子どもたち。大きな葉っぱを拾って見せると、そっと手が伸びてきます。風が吹いて「きもちいいねえ」「ビューンだね」と声をかけると、「うん、うん」と返事のような声が聞こえたり、身体を上下に揺らして気持ちを伝えてくれたり。道中もやりとりを楽しんでいます。

公園ではシートを敷き、玩具やボールなどで遊んでいます。初めは抱っこから降りられなかった子も、今では腹ばいで草に手を伸ばし、そっと引っ張ってみるようになりました。遊びに夢中になり、気が付くと草の上へ。「しまった！」というようにシートに戻る姿もありますが、出たり入ったりを繰り返し、「大丈夫」と感じられると、ハイハイであちこちへ。少しずつ行動範囲が広がっています。

秋の自然の中で、「なんだろう」「さわってみたい」と心を動かす子どもたち。安心できる場所を拠点に、気になるものへと自分から手を伸ばす姿に、一人ひとりの育ちを感じます。表情や声、しぐさに込められた気持ちを受け止め、「おもしろいね」「きもちいいね」と一緒に味わいながら、それぞれのペースで世界を広げていく姿を見守っていきたいです。

text by Yuito Fukushima

おつきみ会

text by Tomomi Yamazaki

ラボに大きな月が飾られた日から子どもたちは、「お月見会の準備をしよう！」と月の周りや室内に星を飾り、お月見会を楽しみに待っていました。ところが前日、丸かったはずの月が細い三日月に変わっていることに気付く子どもたち。「月がないよ！」「見て見て！」と登園してきた友達や大人に知らせ、「お月見会どうする？」「泥棒が入ったのかな」「誰か食べちゃったんじゃない？」と、思い思いに想像を膨らませながら推理を始めました。

「何があったと思う？」と問いかけると、「監視カメラを見てみよう！」という声が上がり、みんなで映像を確認することになりました。そこにはラボに忍び込み、月を持ち去る一匹のうさぎの姿。さらには地域のお店や保護者のお店に入り込む様子も映し出され、「ラボのおもちゃで遊んでる！」「ここ知ってる！」と驚きと笑いの中で、気持ちは一気に探偵モードへ変わっていきました。そうしてうさぎが逃げ込んだ場所が分かると、いよいよ月の欠片を取り戻すための作戦会議へ。お団子づくりと１か所での欠片探しに挑むのばな、３か所を巡るそよかぜ、そして５か所を巡る幼児。それぞれのクラスに、それぞれの役割が待っています。そこから地図を囲みながら作戦会議を開いたみなそらだいちさん。「ここから行こう」「だいちなら遠いところまで行けそう」と相談しながら進む順番などを決めていきます。また、「この公園を通っていたよね」と映像を思い出しながら、うさぎが歩いた道順をたどるチームもありました。友達同士で意見を出し合い、自分たちで考えながら計画を立てたことで、翌日の冒険を楽しみにしている様子がありました。

そして迎えた当日。子どもたちはチームごとに決めたルートをたどりながら、月の欠片を探しに出発しました。「あの公園はあっちだよ！」と先頭を歩く子。「この先はわからない…」と足が止まると、友達から「あっちだよ！」と声が返ってきます。誰かの言葉に誰かが応え、また一歩。それぞれの思いや言葉を重ねながら、子どもたちは仲間と一緒に目的地を目指していました。

道中では、うさぎが遊んでいた遊具を見つけて同じように遊んでみたり、「ここ通ってたよね」と映像を思い出したりしながら、本当にうさぎを追いかけているかのように楽しんでいました。月の欠片を見つけると、お店の方に「こうやって月を持っていかれたんだよ！」と夢中で説明する姿も見られました。また、別のチームでは進む道について意見が分かれましたが、作戦会議で使った地図を広げて確認し、「こっちの道だね」と納得して再び出発。友達と相談しながら、自分たちで考えて進めていく姿がありました。

こうして集めた月の欠片をラボへ持ち帰ると、今度はみんなで協力して大きな月へ貼り戻していきました。すべての欠片が集まり、完成した月を見ながら、お月見パンやのばなが作ったお団子入りのフルーツポンチを味わい、お月見会を楽しみました。月がなくなるという不思議な出来事から始まった今回のお月見会。友達と相談し、地域の人と関わりながら、自分たちで考えて行動し、力を合わせて月を取り戻した経験は、子どもたちにとって特別な冒険となりました。

day1

あれっ！？月が無くなってる！



みんなで防犯カメラの映像を確認！



どこに逃げたのかな〜。



うさぎ見ませんでしたか？



お団子作って待ってるね〜！



day2

探しに行くぞ〜！



1個あったよ！



うさぎさんが買っていた自動販売機だ！



ここかな？



集めたかけらを繋ぎ合わせて…



み〜つけた！



月と同じ色のパンだ！



いただきま〜す！



Minamo Ozora Daichi
SCISORS
加藤写真館
Thunder　Snake

Minamo Ozora Daichi
約束の花束
ほっこりや

Nobana
BELINDA
お団子作り

Soyokaze
美容室　OFF
２３４３
KIDS DESIGN LABO

おつきみパーティー

text by Riho Fujii

今回は、私自身の「やってみたい！」という思いを形にして開催したお月見パーティー。秋の実りを感じる十三夜の日に、みんなでご飯を食べながら交流したい！ラボのカレーの美味しさを知ってほしい！また、日頃お世話になっている農家さんにも、子どもたちがどんな表情で、どんな反応をしながら野菜を美味しく食べているのかを見ていただきたい。そして、保護者の方にも野菜を購入していただく機会を通して、農家さんとの会話やつながりが生まれるきっかけになればと願い、今回のパーティーを企画しました。

多くの方に足を運んでいただきたいという思いで準備を進めてきましたが、当日は予想をはるかに上回る方々にご参加いただき、喜びと驚きでいっぱいに。会場に集まってくださった皆さまの姿から、今回の取り組みに寄せていただいた関心や、それぞれの思いが伝わってくるようでした。

また、当日は保護者の方々ともたくさんお話しすることができました。「こんなに美味しいカレーを毎週食べられる息子が羨ましいです！」「家では野菜を食べないのに、こんなに食べるんですね！」といった声を直接聞くことができたのも、嬉しい出来事のひとつです。普段の保育の中でお話しする機会とはまた違い、食をきっかけに子どもたちの姿やご家庭での様子を共有できたことに、新鮮さと交流の実りを感じました。

今回のイベントを通して、食事を囲むことが、人と人とのつながりを生むきっかけになることを改めて感じ、今後も地域や保護者の方々との関わりを大切にしながら、人と人とのつながりが自然と生まれるような機会をつくっていきたいです。











楽菜ファーム

神奈川県海老名市で有機農業に取り組み、
年間約 40 種類の「楽しく美味しい野菜」を栽培。
『2343 DEPARTMENT』にも野菜を納品しています。

厚木いいはちみつ

厚木の上萩野に複数の畑を持ち、無農薬栽培や減農薬栽培に拘って耕作。「厚木いいはちみつ」と言う店名の通り、
実はこだわりの蜂蜜を提供する養蜂家の一面も。

埜蜜喜

山梨厳選素材から生まれた手作りシロップと
富士山天然氷で創られた贅沢かき氷のお店。